

川を通して地元の歴史を知る

おそらく2万年以上前から、そして開拓が始まってからも、川は十勝に住む人たちにとって、とても大切な「道」でした（ p126・p175 ）ですから、十勝の歴史を知ろうとする時に、川はとても大切なポイントになります。

大津（豊頃町）、そして十勝川を中心に、十勝の歴史をさぐっていこうという人たちがいます。史跡をまわり、船で十勝川をめぐり、資料を探して整理し、過去に近づこうとしています。

ほかにも歴史をさぐる人たちは各地域にいて、中には、開拓者やかつての探検家たちの足どりをたどって、川ぞいを歩く人たちもいます。



大津（豊頃町）から池田市街まで、茂岩（豊頃町）で一泊して歩く。「十勝川渡船・駅通探訪（十勝川の歴史を探訪する会 主催）」の一コマ。



取り残された人をゴムボートで救助する訓練。平成15年（2003）の十勝川水防公開演習（豊頃町）。

さまざまな地域でさまざまな活動が

十勝の自然を守ろうとする人たちは、自然豊かな河川の実現をめざした活動をおこなっています。

また、住民、とくに子どもたちの自然体験の場として、川を活用している人たちもいます。

あるいは、スポーツを楽しむ場として、健康づくりや仲間づくりの場として、川を利用する人たちもいます。

ほかにも、清掃活動をする人たち、洪水の時に街や農地を守る活動をする人たち（左ページ上写真）人の命を助けるための活動をする人たちなど、多くの人々がそれぞれの地域で、それぞれの考え方で、川とつながり活やくしています。

活動団体同士をつなぐ ... 北海道エールセンター

「北海道エールセンター（帯広市）」では、北海道内で登録されている「子どもの水辺」についての情報を集めて公開しています。また、活動している団体を紹介、たがいの交流を進めてもいます。

北海道で30カ所以上が子どもの水辺に登録され、十勝では札内川の光南地区と大正地区（帯広市）、十勝川の熊牛地区（清水町）、利別川（池田町）、音更川（音更町）、途別川（幕別町）、伏古別川・ウツベツ川・帯広川・売買川・柏林台川（帯広市）の各水辺の楽校が登録されています。

エールセンターでは、そのほか、ライフジャケットやカヌーなど道具の貸し出し、指導者の案内、環境学習の手伝いなどをおこなっています。

また、川での安全な活動を広げるために、RAC（川に学ぶ体験活動全国協議会）の指導者養成講座を開いてもいます。（水辺の楽校 p225）



帯広市東15条南4丁目1-73先「治水の森」0155-20-3755
http://yell.p1.bindsite.jp/cn17/index2.html

3 史跡（しせき）：歴史的なできごとにかかわる場所や建物など。
4 子どもの水辺（こどものみずべ）：『子どもの水辺』再発見プロジェクトによって登録された場所。このプロジェクトは、平成14年（2002）より、国土交通省・文部科

学省・環境省が連携し、子どもが川をもっと利用し、よりよい体験活動がおこなわれるようにしようとしている。（http://www.mizube-support-center.org/outline/mizube.html）